

令和元年度 第1回帯広市総合教育会議

1. 令和2年3月30日月曜日 10時 ～ 11時20分
総合教育会議を帯広市役所10階 第5B会議室に招集する。
2. 本日の出席者
帯広市長 米 沢 則 寿
教 育 長 池 原 佳 一
教 育 委 員 田 中 厚 一
教 育 委 員 藤 澤 郁 美
教 育 委 員 佐々木 しゅり
教 育 委 員 塩野谷 和 男
3. 本日の議事日程
 - (1) 経過報告等
令和元年度帯広市における教育関連の主な取り組み経過について
 - (2) 協議事項
教育大綱について
4. その他
教育分野における新型コロナウイルス感染症対策について

1. 開会

米沢市長)

- ・今般の新型コロナウイルス感染症対策について、学校・生涯学習施設などの現場で適切・冷静に対応されており、今後も地域の総力を挙げて万全の対応を図っていかねばならない。
- ・本市の教育大綱は、帯広市教育基本計画を以て代えることとなっているが、本計画は平成22年3月の策定から間もなく計画期間の10年を迎える。今日の会議では令和元年度の経過報告のほか、今年度末で期間満了となる教育大綱について協議を行う。
- ・教育を取り巻く環境は大きく変化しているが、学びを通じて培ってきた人のつながりを、今後に向けた財産としながら、複雑・多様化する課題に地域総ぐるみで取り組み、これからの時代にふさわしく、帯広市らしい教育を創造していくことが重要であると考えている。皆様には将来に向け、幅広い視点から忌憚のないご意見をいただきたい。

池原教育長)

- ・教育の取り巻く現状、課題について、学校教育の分野では、次期学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みの推進が将来の帯広の持続的な発展にもつながると考えている。子どもたちが地域とつながりを持って深める取り組み、プロセスが重要になると思っている。
- ・生涯学習の部分では、人生100年時代の到来と言われるが、誰もがライフステージに応じた豊かな人生を送ることができる取り組みの必要性が一層高まってきていると考えている。そのためには、生涯にわたり身に付けた知識や技能を生かして活躍できる環境づくりを進めていくことが重要。
- ・新たに今年策定した「帯広市教育基本計画」に基づき、施策を着実に推進していくことが重要と考えているが、新型コロナウイルス感染症など緊急的な対策についても、適切な対応が必要である。この総合教育会議では、市長を交えて各委員には様々な立場から、教育大綱策定へのご意見、各協議題などへの意見交換を行いたい。

2. 経過報告等

○令和元年度帯広市における教育関連の主な取り組み経過について

事務局)

(資料1について説明)

田中委員)

- ・最も記憶に残ったのが市民オペラ等の文化活動の発展である。特に市民文化ホールが今年度リニューアルされ、様々な形で市民や地元業者の皆さんが集まり、協力したのは素晴らしいと思う。市民オペラは歴史を重ねており、市長や教育長も出演し話題にもなった。
- ・帯広交響楽団が北海道地域文化選奨を受賞されたことも記憶に残っている。文化は基本的には自発的な行為で動くものだと思っており、帯広市は行政としての立場をわきまえ、適度に関わりを持っていることは評価できる。ただ、各団体が手弁当で活動している状況にある中で、行政の支援にも限界があると思うので、いかに私たち市民が協力できるか、その舵取りを行政、特に生涯学習部が対応する形で整えていければよいのではないかと。帯広のほかにこれだけの文化活動を進めている地域はたぶんそれほどないと思う。

藤澤委員)

- ・印象に残ったことは、田中委員同様、文化ホールリニューアル記念公演のステージである。教育長の出演を拝見したが、生き生きと演じており感動した。こういう形での市長と教育長の出演は、一市民から見ても参加型でとても良いことだと感じた。
- ・小学校の教科書の採択も印象に残っている。個人的に教育委員として最も責任の重い任務だと思っており、負担感も相当あるが、普段とは違った立場で検討、選択できるということは滅多にないことなので、深く携わらせてもらった。子どもの学習のしやすさ、教師の指導のしやすさ、一般市民のご意見なども参考にしながら検討した。特に英語は、中学校とは異なった授業形態があることも想定し、まずは英語に親しむ、英語を楽しむというコンセプトが一貫した教科書を選んだ。中学校の英語の授業には、子どもたちが英語を好きになり、友達と楽しく伝える授業になることを期待する。英語を中学校から始めるよりも、小学校から始めることには賛成である。入り口が一番大事だと思うので、まずは好きになってもらう、楽しくできることを念頭に選んだ。

佐々木委員)

- ・私は学校での図書ボランティアをしており、第四期帯広市子どもの読書活動推進計画の策定が印象に残っている。この計画の肝は、それぞれの子どもが本と出会い、楽しさを知って、自主的に継続して読書活動を楽しむ環境を整えることだと思う。今はインターネットで情報も娯楽も簡単に手に入る家庭環境にあり、子どもたちが読書に集中できるように仕向けるのはとても難しい。楽しいから読みましようと呼びかけても、まとまった文章を読むこと自体が苦痛に思

う子どもが多いと感じる。簡単に無理のない範囲で本に慣れ親しむルートをたどらないと、子どもたちは本を読まなくなるのではないか。そのためには、幼少期からの読み聞かせが最も効果的だと思う。

- ・今年度の帯広市小中学校の読書アンケートの調査結果では、就学前に家の人によく本を読んでもらったと答えた児童・生徒は、全く読んでもらわなかったと答えた児童・生徒に比べて、読書が好きである割合や、1日の読書時間、1ヵ月の読書冊数が増える傾向が見られたとのことである。この計画では様々な個別施策が用意されているのでその効果に期待する。
- ・もう1つ大事なことは、ある程度の年齢になるまで本に慣れ親しんでこなかった子どもを置いていかないことだと思う。どの年齢、どの段階でも、本の世界への入り口を何度でも開いてあげることが大事である。子どもたちそれぞれの読解力に合わせて、無理なく楽しく本を読める環境が必要だと思う。

塩野谷委員)

- ・コミュニティ・スクールを導入し、地域で連携しながら子どもの育成に一体となって取り組んでいくことに対して成果や効果を期待する。
- ・藤澤委員も述べられた教科書採択も印象に残っている。私は教育委員になって4年目だが、最初は小学校の道徳、翌年が中学校の道徳、その翌年が小学校の全教科の採択だった。仕事をしながらの1ヵ月間で全教科に目を通して採択するのは非常に大変な作業であった。今年は中学校の教科書採択があるが、子どもたちの将来のために任務を全うしたい。

池原教育長)

- ・就任後は激動の5ヵ月間だった。何が起きるのか全くわからない、新型コロナウイルス感染症の流行は想像できなかった。先を考えながら仕事をする、その時その時にどう対応していくかということの難しさがあるが、その先には市民や、子どもたちがいるので、不安のないような取り組み、発信の仕方を含めて行うことが大事だと日々思っている。

米沢市長)

- ・田中委員から地域における文化の在り方や行政との関係性などについてご意見をいただき、私も北海道地域文化選奨の受賞に際しては、これまでの継続性、将来へつなげていくことの大切さを改めて感じたところである。これからも文化と行政の適度な関わり合いについては、真剣に考えていかなければならないと思う。
- ・藤澤委員と塩野谷委員から教科書採択のお話があった。大変苦勞されたという

ことで、我々ももう少し配慮していかなければならないと感じた。

- ・藤澤委員から小学校の英語教育、佐々木委員から読書についてお話があったが、入り口はとても大切である。読み、書きはとても大事な部分で、読書の素晴らしさは自分で読み、書いて、イメージすることにより、英語のコミュニケーションにおいても、読み、書きの大切さをもっと見直さなければならぬのではないかと思った。
- ・私は11月に帯広第一中学校で課外授業をさせてもらった。全校生徒が体育館に集まり「フードバレーとかち」とは何か、どんなまちを市長は目指しているのかなど、いろいろな質問を受けた。改めて、子どもたちの真剣な眼差しはこんなにも緊張を与えられるのかという印象だった。新総合体育館について、なぜ「よつ葉アリーナ」なのかという質問があった。ネーミングライツはわからないよねと言いながら説明したが、しっかりと理解していた。彼らは子どもだからわからないのではなく、わかるように説明すれば、真剣に聞いてくれるのだと思った。
- ・来年度から、おびひろ市民学が始まる。我々がこれから何を伝えていかなければならないのか、何を見せていかなければならないのか真剣に考えなくては行けないし、将来、ふるさとがあって良かった、それが帯広で良かったと言ってもらえるよう、ふるさとを持つことの幸せを感じてもらえるように取り組んでいかなければいけないと感じた。

3. 協議事項

○教育大綱について

事務局)

(資料2、3について説明)

米沢市長)

- ・事務局から新たな教育基本計画を以て教育大綱に代える旨の説明があった。このことを含め、各委員から今後の教育について、ご意見等を伺いたい。

塩野谷委員)

- ・教育基本計画をもって教育大綱に位置付けることに異論はない。
- ・スポーツ関連について、昨年ラグビーのワールドカップがあったが、競技スポーツを通して、自分の役割に気づいて行動する、チームワークの中で心身ともに健康の増進や人間的成長を図ることも重要だと思う。私はゴルフを競技ではなく親睦と健康管理として楽しんでいる。楽しみながら健康管理できることは

重要だと思う。

- ・最近は新型コロナウイルス感染症の影響で野球や文化的なコンサートにしても自粛が続いているが、スポーツや文化活動は生涯学習でも取り組んでいるテーマであり、人間として豊かに生活していく上でも、非常に重要なものだと改めて感じたので、市民が深めていけるようにしていただきたい。

佐々木委員)

- ・教育大綱について、教育基本計画を以て代えることに異議はない。
- ・今年度導入のコミュニティ・スクールについて、大いに期待している。学校と家庭と地域の連携を推進して、地域全体で子どもたちを育てることは、教育基本計画の施策にも据えられていて、帯広市のめざす教育の在り方の大きな柱の1つだと思う。エリア・ファミリー、PTAやボランティア活動など、これまでも取り組んでいるのに、新たにこのような制度が必要なのかという声もあるが、コミュニティ・スクールは、これらを基盤にもう一步進んで、それぞれの活動主体が共通の目標を持って緊密に連携し、さらに組織的に行えるようにするもので、改めてこの制度を作る意義はあると思う。私はPTA活動とボランティア活動にも携わっているが、コミュニティ・スクールの導入で、各々の思いやアイデアが学校運営により活かされやすくなるのではないかと期待している。
- ・一方、今年度の教育懇談会では、「めざす子ども像」を共有することに対する不安感や、子どもの多様性が尊重されないのではないかなど懸念の声もあった。私自身も、当初はそのような危惧があったが、教育委員の皆さんと協議する中で、決して多様性を否定するのではなく、子どもたちが幸せな人生を歩むために必要な資質や能力の習得を、様々な立場の大人たちがサポートする仕組みであると理解している。子どもたちにとって何が必要なのかとの視点があれば、コミュニティ・スクールの運営において、市民が不安に感じていることは起こらないと思っている。今後は情報発信を行い、制度の導入を進める中で、多くの人々にコミュニティ・スクールの実態が知られていくことになると思う。コミュニティ・スクール通信の第1号によれば、順調に会議が進められ、具体的な活動が進んでいるようなので、今後の活動の展開に期待している。

藤澤委員)

- ・教育基本計画を以て教育大綱に代えることについては賛成である。
- ・今後の動物園への期待についてお話しするが、動物園は教育委員会所管であり、博物館相当施設として、教育事業を担う役割があると思っている。これまでも各種のふれあい体験があったが、今後は家畜とのふれあい体験を期待したい。今の

時代の動物園には、SNSやブログ等を活用し、実際に入園せずとも動物を動画で観察することが必要だと思う。

- ・施設整備も不可欠だと思うので園路のほか、トイレや休憩所の整備など、安全で快適な環境整備を早急をお願いしたい。キッチンカーが導入されているが、将来的にはカフェやレストランなど、十勝産の食材を使用して、動物園ならではのメニューを提供できれば、食育としても期待できるのではないかと思う。また、ブリーディングローン制度を活用して帯広での飼育に適した新たな動物の導入など、地域の独自性を持った取り組みを進めてほしい。市民の多種多様なニーズに対応し、学習面も娯楽面も満たせる動物園を目指してほしい。

田中委員)

- ・教育基本計画を教育大綱に代えることに全く異議はない。市長もよくお話されるが、Society5.0やAI技術の発展、直近では5Gに変わるなど、価値観自体が大幅に転換してきて、我々の価値観ではあり得ないような時代がすぐそこまで来ている中で、10年スパンの計画を立てることは、どれだけの意味があるのかということを考えなければならないと思う。
- ・子どもたちにとって、いろいろな意味での力を持ってもらいたいという意味で、教育があるのだろうと思う。今の新型コロナウイルス感染症、季節的なインフルエンザ、一昔前と言えば70年代のオイルショックや、コンピュータ西暦2000年問題など、大きな災害や想定外と言ってはいけないとしながらも、予期せぬことが起きる時に、どのように若者たちが冷静に対処していくのだろうかと思っている。国際社会に門戸を開くと、想定外の事案への対処能力を求められるのは当たり前だし、その中でどうやって世界を俯瞰できる力を身に付けることができるのか、今問われていると思う。大人の責任でもあるし、教育の責任でもある。
- ・大空の義務教育学校や小中の取り組みについては、子どもたちだけではなく、先生・地域住民にとっても範例になるだろうと思う。エリアごとに、ある種の価値観を持ちながら、それを総体としておびひろ市民学を持つてくることは、「まちづくりは人づくりという原則」に合っていると思う。閑静な、悪く言えば寂れつつある大空地区に小中学校が新しい形でできることによって、今までマイナスの要素であったものが、プラスの要素として住民から捉えられるようになってきている。価値観が明らかに変わってきている中で、難題解決の1つの例になり得るものとして、大空地区があるのかもしれないと思った。

池原教育長)

- ・各委員から、スポーツと健康の話、コミュニティ・スクール、動物園の魅力づくり、田中委員からは学校と地域課題の解決という視点を持った意見を挙げていただいた。どの取り組みも教育委員会だけではできない。関係する部局と連携を取りながら、一緒に取り組んでいくことがますます重要になると思う。
- ・市長からおびひろ市民学の話もあった。単純にふるさとを学ぶということだけではなく、こんな大人になりたい、ここで育ったことがうれしいという思いを子どもたちに持ってもらえるようなことが、いろいろなプロセスを通じてできればよいと考えている。
- ・年齢に関係なく、市民が人と地域のつながりをどう深めていけるかということが今後も重要になると思う。今回の教育基本計画は、人づくり、地域づくりとして取り組んでいくことも大きな柱となっているので、本市の教育大綱に位置付けることで、今後10年間進めていけるのではないかと考えている。

米沢市長)

- ・塩野谷委員からスポーツと文化のお話があったが、全くそのとおりで、豊かな市民生活の基になるというのはそういうところだと思う。着実にスポーツ施設の整備もやっていきたいし、来年度、SPOBY（スポビー）という携帯電話の万歩計アプリを使った健康推進に取り組む。健康とスポーツのつながりを意識しなければならぬと改めて感じた。
- ・佐々木委員からは、コミュニティ・スクールの導入を通して、学校・地域・家庭との連携や関わりがより深まり、学校運営に活かされるとの期待が伝わってきた。市民の懸念についてもお話があったが、我が国では過去に「期待される人間像」について議論された時期があり、「めざす子ども像」という言葉に、国から押し付けられるとの当時の危機感を重ねる人たちがいるのだと思う。ただ、過去の出来事のイメージに引きずられると、考え方としておかしくなかったことまで潰してしまうことになると思う。コミュニティ・スクール導入の意義は、さきほどのお話のとおりだと思うし、皆さんが自分たちでやっていくということを我々は真ん中に置いていかななくてはならないと感じた。学校を中心としたコミュニティがとても重要だと思っている。
- ・藤澤委員からは、動物園のお話があった。動物園は四代前の吉村市長のときに整備されたが、開園当初から様々な苦労があったと聞いている。課題を1つずつクリアして、魅力づくりにしっかり取り組んできた職員や市民の皆さんの努力の積み重ねだと思っている。インドゾウのナナが亡くなり、動物園の大きな節目だと考えている。北海道、北国、農業、十勝の特色を活かした他にない魅力ある施設を作っていくタイミングが来たと改めて思っており、多くの皆さんから愛される動物園にしていかなければいけない。

- ・田中委員が述べられた大空地区の義務教育学校のお話は、委員及び地域の皆さんのおかげで良い方向にきていると思うが、9年間を見通したある程度の方向性を持たなければならない。この地区での学校、家庭、地域の連携が、他の地域のモデルとなる活動にならなければいけない。大空地区の町内会の結びつきは強く、今後の地域での取り組みを我々も注視しなければいけないと思う。
- ・教育長の話も含めて、最後に私の意見を述べさせていただく。令和2年度の市政執行方針を議会に提出した。3つの重点の1つとして、「新たな時代を切り拓くひとをつくる」を入れた。その中で「自らの基礎を深く知る」、「主体的に考え、行動する力や他者と協働する力を身につける」ということを言っている。先ほど時代の変化をいくつか挙げていただいたが、これだという唯一の回答がなくなったということが1つ大きな時代相だと思う。知識やスキルを習得することだけが教育の目的ではなくなってきたことは大きな変化であり、自ら問いを立てて、課題への探求を続けていく姿勢が重要になると思っている。物ごとを考える時に、歴史を学ぶことも重要だが、現実の要請の中でものを考え、何が僕らに求められているのか、そういうものを知ったり、それを伝えていく場づくり、それが教育の場に要求されてくるのではないかと最近感じている。正解が1つではない中での今後の時代における、それぞれのあり方をこれから10年見ていきたい。地域の総力を挙げて取り組んでいく、国家百年の計であり、我々は今やっていかなければいけないと思っている。私としても、この計画を教育大綱に位置付けて着実に推進していきたい。

(採決)

- ・令和2年度からの教育大綱について、事務局説明のとおり新たな教育基本計画を以て代えることに全会一致で決定。

4. その他

○教育分野における新型コロナウイルス感染症対策について

事務局)

(資料4について説明)

池原教育長)

- ・日々国の動きも変わっており、4月8日に入学式、始業式を予定しているが、文部科学省の学校再開のガイドライン、道教委からの通知などを踏まえながら、小・中学校、南商業高校も含めた学校の再開を保護者の方にご説明できるよう検討を進めている段階である。今後も様々な対策を実施するが、市長部局とも

連携を図りながら取り組んでいく。

米沢市長)

- ・文科省のガイドラインを踏まえて、学校における感染症予防対策に万全を期してほしい。全国一斉休校はかつて経験のない事態であり、児童・生徒、教員も家庭も大きな負担、ストレスを感じている。心身のケアを意識していただくことをお願いします。教育委員会以外の部局でも、基本的に手洗い、うがいなど、基本的な感染予防の周知啓発に努めているが、休校に伴う保護者の休業補償、学童保育における限定的な受け入れなど、様々な対応を進めている。今後も教育委員会としっかり連携を図り、市民が混乱なく安心感を持てるよう取り組んでいく。
- ・こういう時は信頼関係が一番重要で、我々は地に足を付けた対応をしていきたいと思っている。皆さんからもご協力賜りたいのでよろしくお願いします。